

### 第3回 中国圏広域地方計画学識者等会議 議事録

■日時:令和5年3月10日(月) 13:30~16:00

■場所:建政部 3階 会議室

(対面形式及びWEB形式の併用)

出席者:別紙のとおり

議 題

- 1) 中国圏広域地方計画骨子(案)の検討
- 2) その他

(配布資料)

資料1 中国圏広域地方計画骨子(案)の検討

資料2 広域地方計画見直しのスケジュール

参考資料1 学識者等からの主なご意見

参考資料2 学識者等会議 規約

参考資料3 国土形成計画法

#### 1. 開会

挨拶 (中国地方整備局長 森戸局長)

中国圏広域地方計画 学識者等会議の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。委員の皆様方におかれましては、年度末の大変お忙しい中、本日の会議へのご出席をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、中国圏の広域地方計画のご議論を進めるにあたり、全国計画である新たな国土形成計画については、今月7日に骨子(案)が示され、今年夏頃の閣議決定に向けてとりまとめが進められているところ。今回ご議論いただく中国圏広域地方計画も策定作業を進めており、今年夏頃に計画の骨子(案)をとりまとめ、公表することになっている。昨年10月に第2回学識者等会議を開催し、委員の皆様には、中国圏の現状と課題、方向性についてご審議いただき、中国の強み、中国らしさを計画に反映するようご意見をいただいたところ。

本日は、それ以降に委員の皆様から頂いたご意見を踏まえ、中国圏の現状と課題、ポテンシャル等について再度整理し、中国圏の将来像、目標等をお示しし、今夏に取りまとめる骨子の前段階にあたる骨子の素案についてご審議いただく。中国圏の将来像の検討にあたっては、次のことに留意している。

一つは、新型コロナウイルス感染拡大に伴うデジタルの進展より、都市圏と地方部といった区別、時間や距離の制約がなくなるといった点から新しいテーマとして「暮らし」を設定した。またカーボンニュートラルやGXといったテーマについての「環境」を新たに加えている。

後ほど、事務局より4つの将来像について説明するが、本日は委員の皆様からのご意見を反映し、有意義な広域地方計画を策定させていただければと思うので是非奇譚のないご意見をいただければと思います、私の挨拶に代えさせていただきます。

## **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

冒頭、森戸局長の方からお話があったように、去る3月7日に第17回計画部会が開かれており私もWEBで傍聴させて頂いた。骨子（案）について議論されているなかで、政策研究大学院大学の家田委員から広域地方計画への注文として「個性性を重視し、優先付けをせよ」「全国計画のコピーにするな」とのご指摘があった。そういった議論をしっかりと踏まえながら本日は様々な意見をいただければと思う。

この間も、コロナによる大変な状況が緩和されてきて様相が変化してきているところもある。そういった意味では、これから先の新たな計画のあり方について色々と意見交換をさせていただければと考えている。

## **事務局**

ありがとうございました。

これからの進行は、渡邊座長よろしく願います。

## **2. 議題**

### **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

これより、議事次第に従って進めたいと思う。事務局から資料1について説明をいただき、その後、各委員からご意見をいただきたい。

各委員の皆様からいただきたい意見としては資料1の60ページの3点。これらを大きく2つに分けて議論を進めていきたい。

1つ目は「4つの将来像は適切であるか」という大枠の議論

2つ目は将来像に対応した基本戦略（目標）、プロジェクト、主な施策など具体の視点という2段階で進めていきたいと思う。

それでは最初に事務局のほうから説明をお願い致します。

## **事務局**

### **1) 中国圏の現状と課題、対応方針**

事務局より資料1を説明（省略）

### **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

それでは、各委員の皆様から意見、お気づきの質問等がありましたらお願いしたい。各委員の皆様からは資料1の25ページまででご意見ございましたら是非頂きたいというのが最初のラウンド。

一人5分程度時間があるので、ご自身のエピソードを交えながらお話しいただけるといいかと思う。それでは資料P25まででお気づきの点があれば。

## 齋藤委員（山口大学）

内容についてはよいと思うが、文言で引っかかるところがあり検討いただければということでも申しあげる。

4 ページのところで「暮らし」と「環境」のところ。説明の中では交通ネットワークが様々な将来像に関係するので、複数の将来像に盛り込むとのご説明だったが、1つ目の将来像である「暮らし」には交通を前面に出す意味でも、「暮らし」という言い回しに「交通」を入れてほしいというリクエスト。また、「産業・経済」に対して「暮らし」は比較的緩い表現であることから「暮らし」に交通を加味した上で「生活・交通」としてはどうか。

4つ目の将来像である「環境」についても、環境だけだと少し違和感がある。説明のなかで「社会」という言葉もあったので、「環境・社会」としてはどうか。

23ページの中国圏のポテンシャルについて、スポーツの部分で「都市型スポーツ」という文言がわかりにくい。固有名詞なら「アーバンスポーツ」とし、「スノースポーツ」は「ウインタースポーツ」としてはどうかと思う。「都市と田舎」という表現も、「都市と農村」とした方がよいのではないか。全体的にイメージしやすい文言に見直していただけたら良い。

## 高橋委員（株式会社中国新聞社）

計画部会を傍聴するなかで広域地方計画の意義について考えていた。人口減少・少子高齢化や国際情勢の時代の岐路にあるなかで一番の計画全体の命題は「持続可能であること」。その処方箋として地方から見た地域力、「多極分散」が示されており、広域地方計画が重要な意味を持つと感じた。

従来の計画は均衡発展の観点から連携を示しており、最近の言葉であれば「Win-Win」の形で地域力こそが持続可能な国土の要であるのではないかという点。そのために、全国計画における「地域生活圏」がかなりキーポイントになっていて、それに対して中国圏が何を示すことができるのかという点の一つ。

もう一つは行政だけではなく住民や民間も「暮らし」のなかで主体となる点がかかなり打ち出されている。地域力やその土台を持つ地方がこれを生かして計画を打ち出すことが重要であるイメージを持った。そうした理念などが地方計画にはあることを中国圏の言葉として書き込み、危機をチャンスにどんな未来を描いていくのか示すことができる計画であるとのメッセージが必要かなと思った。

その上で骨子案の組み立てを見ると、ポテンシャルを踏まえた形で将来像がイメージしやすくなるなと感じた。課題を整理してそこから考えると、どうしても地域課題の関係性が強くなってしまいう傾向があったので、このまとめ方は見返す上でも非常にわかりやすい。

その上で「暮らし」と「産業・経済」、「安全・安心」については委員の皆さんの多様で重層的なご議論があったことで層が厚いなと感じた。一方で、環境が少し漠然となっている印象を受けた。単に山や海があることにとどまるようにも読み取れてしまう形で、中国圏の環境を地域価値として高めていく視点がほしいと思った。

それこそが地方にしか無い地域力等であり、国際的に見たSDGsやエネルギーなど地方の経済成長につながる価値の観点でまとめていくのが良いのでは無いかと感じた。

また第4節を設ける理由を説明いただければという点もある。23ページの中国圏のポテンシャルの

図について文字で説明すると中国圏の哲学・理念が多く含まれており、特に「サステイナブル」の観点  
が大きな軸となり多様なライフスタイルを選べる点が中国圏ではないか。

あるいは現在の説明形式であれば、全国計画における「森の国」「海の国」「文化の国」との対応があれば中国圏のポテンシャルと対応するので、エコツーリズムや森林資源の利用など施策をスムーズに盛り  
込めるのではないかと思った。

### **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

ありがとうございました。将来像について齋藤委員、高橋委員からもお話があったようにワーディング  
については少し検討が必要かもしれない。

私が思うのは、4つの将来像の上に立つキャッチフレーズがあれば良いのではないかと感じた。

全国計画における「新時代に地域力をつなぐ国土」「シームレスな拠点連結型国土」など堅苦しいワー  
ディングはあるが、先日訪れた別府では「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」という非常に端的でわか  
りやすいものがあった。ここまで柔らかくなくてもよいが、4つの将来像の上にどのような将来像があ  
るのか事務局あるいは委員の我々でも構いませんので考えてもよろしいのでは無いか。

先ほど話のなかにあった「サステイナブル」や「ウェルビーイング」などいくつかのキーワードがあ  
るかと思うので、何かそういったワーディングがあればいいかなと感じた次第。

### **氏原委員（山口大学大学院）**

新しい国土形成計画の中に「新時代に地域力をつなぐ国土」「シームレスな拠点連結型国土」つまり  
「つなぐ」ことが大きなポイントになっているという理解をしている。さらに、つなぐことで生活の質  
やQOL向上、地域経済の活性化につながっていくという風に考えている。一方で中国地方らしさとい  
うところも一つのポイント。中国地方は小規模な集落が分散して立地しているという特徴がある。中国  
地方ではこれらの集落をつなぐことが重要になってくるわけで、しかも実空間においてつなげることは  
さることながら、デジタル空間においてもつなげることも重要ではないか。

これらを上手くつなぐことで、将来像の①で述べると「誰もが自らの意思でライフスタイルを選択で  
きる」つなぐことで選択でき生活の質を高めることができる点。つまり中国地方の国土構造を踏まえて、  
つなぐことの意味が表現できていないと感じていた。

中国圏における「つなぐこと」のイメージや具体の形を前面に出していただくことでよりわかりやす  
いものができるのではないかと感じた。地域生活圏については後ほど述べるので、ここまでにしたい。

### **大島委員（一般社団法人データクレイドル）**

私も氏原委員と同じようにつなぐことが重要と考えている。つなぐということについてデジタルでも  
出来ることはあるが、自然や歴史・文化などの積み重ねという地域のポテンシャルが重要だと考える。  
岡山県を例として挙げると、高梁川流域に複数の市町があり生活を営んできた歴史がある。地域での生  
活の工夫や防災の知恵などが積み重なっているとといった形で自然と歴史・文化が関わり合って存在して  
いる。

今回の計画の特徴として1時間圏域に10万人という地域生活圏の定義がある。このような都市と自  
然・歴史がつながっていることを挙げることで地域生活圏というものがイメージしやすくなる上、地域

生活圏同士もつながっており、時間的距離の制約がある部分についてはデジタルが補完するというイメージを持っていただけると良いなと感じた。

地域生活圏において、デジタルとリアルは足りないところを補い合うというイメージであり、過去からあるポテンシャルと地域のポテンシャルが未来像につながる形でストーリーがあれば良いなと思う。

### 神田委員（呉工業高等専門学校）

中国地域は、今後日本が抱えるであろう課題を一挙に有するところで、各地の人口減少が進む中で、特に労働力減で経済の縮小とデフレが重なったときの影響が一番初めに出る地域ではないかと考えている。

つまり暮らしのなかでも産業が大変なことになると感じている。4つの将来像の順序がこれでいいかという点は最後に述べるが、特に産業・経済に対する危機感を個人的に大変感じている。職場が呉市なので、製鉄所の閉鎖がわかりやすい例である。閉鎖が進むことで他の地域に産業が集約される。そのターゲットになっている場所が広島であり中国地方ではないか。何も対策を取らない場合、こうした事象はより進行していくのではないかと考える。

一方で吉報となるのは半導体の工場が東広島や呉に進出していることだ。半導体のように既存の集積が進んでいるところはより集積が進むと思う。そのような地域は、広大な敷地や交通のインフラが確保され空港や港湾とのアクセス性も良く労働者の確保が容易という背景があると推測する。

できれば後者のような集積が進む地域にしていく必要がある。拠点としての産業と交通のインフラをしっかり守っていくというメッセージがもっと強く出てほしいという風を感じた。

これらを踏まえると、「産業・経済」が果たして2つ目でいいのかとっていて、さらにこの先の議論になると思うが、交通インフラのアップデートも考える必要がある。

港湾を例に挙げると、深さやターミナル機能・荷捌き機能が現状で充分か。あるいは空港で考えると、飛行機の旅客を捌く機能は整備されているが、物流施設としては不十分では無いかとも思う。高規格道路のネットワークも、山陰側にはミッシングリンクが存在し、供用が始まって50年経過する中国道を始めとする高速道路が現状のままでいいのかといった点を考慮すると、高度経済成長期を支えてきた産業の集積をさらに伸ばす点も含めて、将来的に右肩下がりが前提になってきたときに従来の産業を守ることが欠かせない要素で、そこからスピアウトして新たな産業が出てくる可能性も当然ある。

強い産業には人も集積しており、そこからイノベーションも生まれてくる可能性があることを強く示せないか。中国圏らしさはなにかと言うと、いままで集積してきた産業や都市、地方の存在であり、そうした地域に集積するものへの視点が薄いと感じている。

### 鈴木委員

資料の4ページにおける現行計画の第2節「産業集積や地域資源を活かし持続的に成長する中国圏」から新たな将来像のテーマの第3節「安全・安心」に線が引かれていない点が気になった。事業継続計画(BCP)の策定の観点があるならば、次期計画においてもあるべきではないかと思われる。

また、24ページで、「産業・経済」か「安全・安心」のどちらに入れるべきか悩むところだが、中国圏の病院や役所等のBCPを確かなものとし、社会・経済活動を守ることが「ポテンシャル」に入ってよいのではないかと考える。南海トラフ地震はこの先の20~30年の間に発生する確率が高いとされる

なか、太平洋沿岸が大きなダメージを受けることを想定すると、中国圏の社会・経済活動を担う企業、学校、病院、役所などがそれぞれの活動を維持することは大切であり、BCPを整備することで、災害が起こっても素早く立ち直り、社会・経済活動を継続することができる。また、その横の将来像の部分で「住み続けることができる」に限らず「学びと仕事を継続できる」ことも文言として必要ではないかと考える。

### **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

最後に、私のほうからは5点ほど述べる。

資料の6ページに都市の求心力の低下を示すものとして、都市の人口流出が激しいことを示している部分がある。一方で、これからどういった人口指標で中国圏を語るのかということを考える必要もある。もちろん居住人口や夜間人口を考えることも大事だが、それ以外にも神田委員からご指摘があった就業人口、あるいは観光・出張で訪れる交流人口や事務局の言葉にあるような関係人口などがある。交流人口は携帯電話のデータで可視化できたり、関係人口であればふるさと納税の納税額などから示すことも可能ではないかと思う。こうしたデータを活用することで中国圏のつながりが可視化出来るのではないかと思ったのが1点目。

2点目として、神田委員からもあった産業のところ、これはすごく大切だと感じていて中国圏の稼ぐ力がこれからどうなっていくのかという点はやはり見ておきたい。いわゆるGRPのようなデータを産業別の形を示すことで、将来的にどの産業をどう伸ばすかという点が議論できれば良いのではないかという風に思ったのが2点目。

3点目は13ページに観光の話題がある。国内旅行者の現状ということで、中国圏は隣接圏域から吸引力を持っている地域ではないかと感じた。先ほどの話題から居住人口は吸われているというネガティブな面もあるが、交流人口では吸引力を大きく持っている可能性があるので、こうしたポジティブな点を考えていく必要があるのではないかと思った。

4点目は23ページのポテンシャルのところ、中国圏の特徴をまとめて頂いているが、是非とも考えて頂きたいのは、それぞれの重要性以上にこれらをかけ合わせる発想が大事だなと感じている。例えば産業×スポーツや食文化×産業という中国圏のポテンシャルが相乗効果を持つように発想すべきではないかと思ったのが4点目。

最後の5点目として、全国計画の議論を踏まえて感じているのは「行動変容」という言葉がキーワードになるのではないかという点。人々や産業界の行動変容など変わるといって点が色濃く打ち出されている点がキーワードとして見る必要があるのではないのでしょうか。

### **事務局**

大変貴重なご意見ありがとうございました。我々も今回の資料を取りまとめるにあたって中国圏のポテンシャルや中国圏らしさをいかに表現しようか悩んでいた次第。その点で、個々ではなくクロスするような発想もいただいたのでこれから検討していきたい。

### **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

ありがとうございました。それでは、2つ目の話題に入っていきたいと思う。

後半は資料 1 でいくと 26 ページ以降、先程は地域生活圏の話題などがあつたが、そういった将来像や基本戦略、プロジェクトだとか、あるいは政策だとか、個別具体について色々と御意見をいただければと思っている。

#### **氏原委員（岡山大学大学院）**

スライドの 28 ページにおいてデジタルとリアルが融合して地域生活圏を形成、これが基本的な考え方として出てくる。ただ計画部会の資料の抜粋を張り付けるのはもったいないと感じているところ。ここで中国オリジナルの形をきちんと見せるべきだなと思っている。さらに、計画部会における地域生活圏のイラスト自体、少し内容が薄いと感じているところ。地域生活圏の意味合いはもう少しあるのではないか。例えば、デジタルとリアルの融合によって選択肢が増えるとか、先ほど「つなぐ」「回す」「変わる」と他の委員からも発言があつたが、全てそこに住んでいる方々の選択肢を増やしていくことにつながるのかなと思う。選択肢が地域にたくさんあるということは、そこに多様性が生まれるということ、それがそこに住んでいる人間の生活の質を高めるということにもつながっていくと思う。

私は、都市の包容力という言葉をよく使うが、そこに住んでいる人たちの暮らしを支えるための都市として持つ包容力がどれくらいあるかというような研究に取り組んでいる。何かそういうことにもつながるようで、地域の生活圏で、ただ単純に何かドローンを飛ばしてオンライン教育をやったりとかではなく、もっと深みを持った暮らしにつながっているところに、先ほど話があつた高梁川流域の歴史的なものをつないでいくと、歴史が育んだ結果の生活とかそういう考え方もあるので、ここの部分は最初の話にも戻るが、計画からの資料の抜粋ではなくて、中国地方でどういう地域生活圏をつくっていくんだ、そしてそれによってどういう生活をこちらはこれから提供しようとしているんだというのを、もっとわかりやすく示すべきというふうに感じた。

#### **大島委員（一般社団法人データクレイドル）**

私も、地域生活圏はすごく大事で素敵だなと思う。一方でデジタルが専門の立場だが、結構デジタルに頼っているという感じがする。もちろん道具なのでうまく使えばいいと思うが、デジタルによって地域生活圏が形成されるというようなイメージよりも、やっぱり人の力というか、先ほどの産業の集積だったり今まで積み上げてきたものこそが、力になるかなと感じている。地域生活圏のポンチ絵は次期計画の伝えたいものの一つになるかと思う。さきほど鈴木委員がおっしゃっていたが、やはり「暮らし」には働くことも学ぶことも必要な要素なので、地域生活圏に働くことや学ぶことを入れたほうが世界観としては近いのかなと感じた。

#### **高橋委員（株式会社中国新聞社）**

私もこの地域生活圏の部分をプロジェクトとしては、かなり重要に思っている。施策としてその下にある、例えば、小さな拠点はエリアとして考えられますし、担い手についてはこの多様な部分について女性流出が多い点を加味してどう呼び込んでいくかという点を考慮すると、従来からある取組の積み重ねで先ほど委員の皆さまが仰った内容を述べるものが地域生活圏ではないかという点の一つ。

もう一点は、「官民共創」について地域公共交通の部分で具体が述べられているが、そうではなく幅広

い意味で地域生活圏を動かすエンジンのように私は思っている。公共性の高いサービスに民間分野、つまり住民をはじめ、産業であれば企業が主役になり、NPO の存在など従来政策のなかでは主体として捉えきれていなかった部分が自発的に関わってくる。また、デジタル分野ではデータを積み重ねて、それを基に施策を出すような形で、むしろ市民の方から良質な施策が出てくる場合もあるので、そうした手法の一つとしてデジタルの活用があるのではないかと。

そういった意味では、「人材」の意味として、町内会などの地域活動の担い手という従来からの文脈以上に、大げさな表現をすると日本を作り変える人材であり、地域の主役であるという部分が国の計画では前面に出ていると感じている。そうしたわかりやすいメッセージが出ている点を踏まえると、中国圏の哲学や理念といった部分を出すことで、読んだ人を奮い起こすような書きぶりが必要ではないかと考える。歴史的な経緯も踏まえると、暮らしや産業の部分では、従来からあるものがこれから活かせる観点が挙げられる。

細かい指摘にはなるが、外国人に関する記述が国際交流やインバウンドの視点に限らず共生・人材としての観点が少ないと感じる。産業界においては人材不足によって将来的には外国人人材の活用無しでは成り立たない部分があることから必要ではないかと思う。

### **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

福山市から府中市までを結ぶ福塩線というものがある。府中市と福山市の境に新市という町があり、そちらの素戔嗚（スサノオ）神社では祇園祭というものがある。真偽は定かではないが、博多や京都とかの祇園祭は、うちの祇園祭を真似て作ったのだという風に言われている。

こちらの祭りの面白さは、福山市と府中市をまたいでお祭りをやっている点。経緯としては、元々芦品郡という同じ地域であったこと。それが偶然、市町村合併のタイミングで新市は福山市、府中は府中市といった形で変わってしまった。一方で市街地は当然、福塩線に通って連結しているし、日常的な市民の行動というのは、地域を行ったり来たりしている。府中には工場があるから、働いておられる方が福山市に住んだりとか、まさしくここが地域生活圏ではないかなと個人的には感じている。

何かつながりがある地域、今回 10 万人という形で、日常的な営みという観点で、恐らく生活圏をつくろうとされている。おそらく中国圏にこういった、何か由縁のあるところって結構あるような気がする。なのでそれぞれの地域が「我々はこういった取組が可能ではないか」と想起させる事例を差し込んでいただけるとすごくいいかなと思う。いま私が話した点については、後ほど事務局に情報提供させていただく。

それから、先ほど高橋委員の方からお話がありました官民連携の話でもっともだと思った部分は、地域生活圏の制度設計をどうするのかという点に興味がある。まさか行政が協議会を作ってという形ではないよなという風に感じていて、むしろ民間ベースで協議会をつくって、そこに行政がオブザーバーに入って、民間ベースで地域生活圏のマスタープランを作ってみんなで動かしていくという何かそういった新しいつくり方というのが恐らく必要だと思う。ぜひともそういった意味の制度設計についても考えていただきたいし、国が考えないなら地方発でいくのだという心構えでも構わないと思うので、ご検討いただけたらと思う。

### 神田委員（呉工業高等専門学校）

地域生活圏について、先ほど渡邊座長が仰ったように、必ずしも行政界に限らないと思う。

一つは民間の活動エリア、あるいは文化的なつながりなどの可能性があるかもしれない。資料のなかで 37 ページの左側では庄原 MaaS の取組が挙げられているが、これが地域生活圏の一つの形かもしれないと感じている。このプロジェクトは 5 年目に入ろうとしているが、MaaS に取組みたいから始めたわけではない。

コンセプトとして、中山間地域で交通の困りごとを抱えている場所が、捉え方によっては実証フィールドとして交通の投資を呼び込める可能性がある。尖った色々な取組を仕掛けて実装やトライを進めることで企業進出が進む可能性があり流出する人口を取り戻すくらいの意気込みで取組を進めている。現在出ている効果として、先進的な実証フィールドに対しての現場視察の需要がある。これを起点に宿泊や飲食で産業が回り始めていて、じわじわと消費が伸びている姿がある。

こうした点から、地方の圏域の考え方、あるいは動かす主体のコーディネートがミソかなと思うところがある。行政の協議会とかという形ではなくて、何を指すのかというところに対して、ある地域は民が主体かもしれないし、ある地域は産官学かもしれない、別の地域は産学かもしれない、庄原 MaaS の事例であれば産学が引っ張ってというような形態になっていて、一つに定まらないと思う。

地域生活圏では資料中の例のように様々な取組があり、一つの型にはまることはなく、何を理念に取り組んでいるか整理することで地域生活圏の姿がクリアになるのではないかと感じた。

### 渡邊座長（福山市立大学大学院）

何を理念とするのかというのは、すごく重要なところだと思う。どちらかというとも 28 ページの地域生活圏のポンチ絵は、こんなことを言ったら怒られるが、あまり理念が感じられないなというところがあるので、道具立てはすごくわかるのだけでも、じゃあその道具立てでどんな理念の町ができるんだというところが確かに打ち出しとしては弱いかないという気もするので、それはすごく重要なことだと思う。ありがとうございます。

### 大島委員（一般社団法人データクレイドル）

「官民」については「民」というのは誰なのかと常日頃から感じている。扱い方によっては行政と企業、団体・NPO などの任意団体などが挙げられるが、ここに住民という主体が見えていない。

デジタル分野では、データの民主化という考え方が出てきている。個々の住民が自らの意思で関係者に開示して共有していくことで、データをつなげていく取組が始まっている。

防災であれば、行政や企業が出している防災データは様々あるが、地域住民が自らの意思で気づきを地域にシェアする住民マッピングが進んでいたりする。それが一つの地域内ナレッジになり、防災に限らず、従来、住民は見るだけ動くだけとされていたものが、データは誰のものであるかという観点を踏まえると個々のデータを基に主体的に動く人材育成が重要になってくる。デジタルの活用において、データリテラシーの育成の視点は欠かせない。

### 高橋委員（株式会社中国新聞社）

安全・安心のプロジェクトのところで、人やコミュニティの観点がもう少しあるといいのではないではないか。ハード・ソフト両面の記載の中に含まれると思うが、「ひと」をメインにしていくのであればハード整備の観点は漏れなく議論がされていると思うので、基礎自治体や住民が防災力の向上に取り組んでいる点を取り上げると良いのではないかと感じた。流域治水においても、地域力でカバーしていくという部分が打ち出されて「地域づくり」に関する部分が多く含まれている。高梁川を例に挙げると歴史観などといった地域見合った説明にしていく必要がリスクコミュニケーションとして必要ではないか？現行計画にも記載があることから、こうした観点はこれからも重要ではないか？

### 渡邊座長（福山市立大学大学院）

恐らく、高橋委員がおっしゃることは、流域治水の中には多分含まれている話だと思っている。これまでの治水計画はどちらかというとハード整備が多かったが、それを国・県・市で役割分担をして、さらにその地域力も生かしつつ、一体となって流域で治水をしていく、という考え方だと思うので、それはそういったところにうまく落とし込めるのかなという風にお話を聞いてから思った次第。

### 鈴木委員（山口大学大学院）

「安全・安心」については、個人的には新型コロナウイルスも災害の一つと捉えている。その観点から資料をみると、新興感染症への対応を今後どうしていくかがあまり書かれていないと思った。中国地方の特徴として、高齢化率が高く、拠点が分散していることから、感染症対応の不備は中国地方でのウィークポイントになる。

45 ページ目に総括表があるが、「次期プロジェクト」の「総力戦で挑む防災減災対策の推進」の横に「主な施策」があるが、そこに例えば「医療分野でのデジタル技術を駆使し、新興感染症への対応と併せて防災対策を進める」といった文言があってよいと考えた。

また、先ほど話が出たハード面ではなく、ソフト面でいえば、様々なハザードマップが整備されているが、感染症が拡大している状況下では、ハザードマップに感染症の発生に関する情報を示し、その上で避難計画を立てることになる。感染症の発生状況を考慮した避難計画の策定は、今回のコロナ禍での大きな学びであり、そうした学びを盛り込んだ方がよいと考える。

### 齋藤委員（山口大学）

「安全・安心」について 45 ページで「災害時におけるバックアップ体制の強化」という記載がある。地域住民にとっては、災害時は公民館や公共施設に避難すればいいという認識があると思う。一方で観光やビジネスで来ている人が災害に見舞われて避難を考えたとき、中国地方では人気な道の駅も多いので、道の駅が避難場所の一つに挙げられると思う。

道の駅は最近ではインフラとしての機能を担いつつあるなかで、国土交通省の施策でもあることから、道の駅を拠点として災害時のバックアップ体制を担うことができないかなと思う。外から訪れる人に向けた拠点という意味。

### 渡邊座長（福山市立大学大学院）

大変重要なご指摘だと思う。私もそれについて思ったことがあり、資料1の51ページに「地域インフラ群の再生戦略マネジメント」というのがあり、これはすごくいいなと感じた。

一方で、検討主体が行政だけになっているのだが、私はできたら業界団体の方にも参加いただくのがいいのではないかなと思っている。やはり実際に何かやっていただくとなると業界団体の方、あるいは民間企業の方にご尽力いただく機会が多いことから、そういった意味では、このインフラのマネジメントの中に少し業界団体の方に入っていて、新しい技術開発だとか、そんなことも含めた民間の知恵を入れてもらおうとか、このインフラのマネジメントに限らず、色々なところで業界団体の方と連携するという点で、先ほど大島委員から「官民連携の民は何」という話がありましたけれども、民の一つにそういった業界団体をうまく巻き込みながら盛り上げていくということもすごく必要なのかなというお話聞いてくると思った次第。ありがとうございました。

### 神田委員（呉工業高等専門学校）

「暮らし」の話題になるが、一つは「都市の拠点性」だ。都市に限らずだが、人口が減ってきている中で、従来分散型の都市を整備してきたことを考慮すると相対的に薄く広く残っている状況がある。都市も地方も中心部、あるいは拠点を再構築するというメッセージが入らないかという点、資料の27ページの「拠点都市機能強化とコンパクトシティーの推進」の部分でももう少し解像度を上げたキーワードが入るといいかなと思っている。都市にせよ中小都市にせよその中心の拠点を再構築するぐらいのメッセージが入ってもいいかもしれないと思う。

コロナによる渡航制限が緩和された後に海外へ視察に行くと、トラムを導入している街が一気に増えている印象がある。例えばシドニーであれば目抜き通りの4車線道路を開放して、中央にトラムを通している。ちょうど京都の四条通で行われていたバスを優先する仕組みのトラム版が行われている形。この取組はコロナ前から始まったので最近訪れると大変な人出で賑わっている状態で、世界中の街でトラムが組み込まれたトランジットモールが流行っており導入が進む街では人手が賑わっている。そうした都市の中心部の再興について検討をしなければいけない。

一方で、中小都市に行っても駅の前は何も無い状態になっているところを、地域公共交通維持の観点からそれでいいのかという問題がある。以前は駅前というものは、非常に権利が入り組んでいて土地も高く手がつけられない場所が多いように感じていたが、人口減少が進み、手放したい人がいるからこそ突っ込むチャンスかなと考えている。中小都市も都市も「拠点の再構築」という名前でエッジが効いた施策が入ってくると良いのではないかなと思う。

あとは、重層的なネットワーク形成によるというところで、「官民共創による地域公共交通などの維持」について、おそらく維持しなければいけないのは、地域公共交通もそうだが、都市間の鉄道もそうだとも思う。もっと広げていくと、道路がしっかりしていないと地域の交通を当然維持できないところにある中で、ここに各地域交通だけでいいのかというところは少し標記が変えられないか。幹線交通・地域交通も含めた話かなと思っている。その中で、結局、主な施策として高速道の整備がありますとか、鉄道の高速化が入っていくと考えている。

### **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

確かに周遊観光とかも考えると、恐らくつながっていないと周遊してくれないので、そういった意味でもすごく重要なのかなという風に神田委員のお話を聞かせていただいて、思った次第。

### **神田委員（呉工業高等専門学校）**

このまま放っておくと、山陰本線とかあの辺の鉄道なんかがそのまま今の水準で放置されるではないかという心配があり、それも含めてそのままいいのかという意味を含んでいる。

### **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

その意味では神田委員がおっしゃった。その拠点の再構築というのは、すごく僕は大胆でいいと思う。そういった再構築をする中で、やはり人々の意識を変えていく施策だとか、何かそういうのを全部セットでやっていくとすごくいいのではないかなと思う。

なかなか、「では皆さんバス乗りましょう」と促しても乗ってくれないので、ただどなすごい立派なバスターミナルができて「バスに乗りましょう」と促されるとかっこいいから行ってみようかみたいな風にもなりそうな気がする。

そういった意味では神田委員もおっしゃった再構築というのは、その人々の行動変容だとか、あるいは産業界を始め、いろいろなところの変容につながってくるのかなというふうに思った次第。

### **氏原委員（岡山大学大学院）**

これから先々のことを考えると人口が減ってくる地域も当然あるなかで、中国地方はその先進地域になるところも多いかなと思う。そうしたときに空き家・空き地が増えてくるところが多いかなと考える。

前回の会議でも少し申し上げたが、負の側面をもあれば、正のポジティブな側面もあるところで、ここで申し上げたいのは負の側面を正の側面に変えていく土地利用の活用の仕方なりが必要ではないか。土地利用としてボリュームをふやしていくということも重要だが、そうではなく、土地利用を更新して量と質を高めていくと、空き家とか空き地、社会情勢の変化に合わせて当然リノベーションをする人が創るものもあれば、その立地条件によっては、公園として活用して地域の生活の質を高める、社会情勢が変わることによって、新たな利用のされ方というのが今後出てくると思う。そういう内容についても踏み込んで、暮らしの中でいいのではと思っているが、少し環境のところでも国土管理としては触れられている部分だが、前回の会議でも述べたようなように管理というよりは、むしろ国土の質を高めていく前向きな方向として加えていただければありがたい。

### **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

その話を聞いて、私も工業団地や産業団地などいわゆる工場跡地の転換というのも多分、これから出てくる可能性もあるかなと思っている。そういった意味では、空きが出るというのはネガティブなイメージがあるが、逆に言えば新しいことができるというプラスの側面もあるかと思うので、空き地・空き家活用を少しやっていく必要があるのかなというふうに思う次第。

### 神田委員（呉工業高等専門学校）

中国地方で特に産業用地が足りない、あるいは工業団地があればいいのといういろいろな声を聞いているところ。一方ではおそらく種地がないと産業の発展はあり得ないのだが、従来どおり山を崩していく形ではなくて、グリーンな産業用地の開発について、例えばゼロカーボンのエネルギーについて自然エネルギーを循環してやってくれるかもしれない。そういった話題が「産業・経済」に入ってくるといいなと思う。

### 渡邊座長（福山市立大学大学院）

私は福山市におり、工場がたくさんあるが、町中にも工場があり、区画整理でガラガラボンして工場を建て替えるタイミングでできないかなとか、そのタイミングで思い切ってGXを入れるだとか、またそういうこともありそうなので、そういった意味ではもちろん、新しい産業団地をつくることは決して否定はしないが、既存のいわゆる産業団地だったり、工場集積地のリニューアル、そういうのも少しポイントだし、意外とそういうところは街場に一番近いところにその工場があったりすると、また新しい土地利用のあり方って考えられると思うので、そういった観点もとても重要だと感じる。ありがとうございます。

よろしいでしょうか。それでは最後、私の方でちょっとまとめの話をさせていただいた後に、荒川副局長、増田運輸局長、それから森戸整備局長の方からコメントを頂きたいと思う。

### 渡邊座長（福山市立大学大学院）

本日は中国圏の広域地方計画骨子素案ということで、事務局の方からお示いただきました骨子の素案について議論をさせていただいた。柱立てについては4つをどうするというはあまりなかったと思うが、ワーディングについては結構ちょっと出てきたかなと思う。その辺りは精査いただきたいと思います。私の方からもちょっとお願いをさせていただいた部分、将来像の上にこう何か1行で端的に中国圏はこういうことを目指すんだみたいな。何かそういったキャッチーな文章をつけていただくとすごくいいのかなというふうに感じた。その中で「つなぐ」とか「回す」だとか「変わる」だとか、色々と意見交換の中で出てきたワーディングがあるかと思うので、その辺りをご参考に御検討いただきたいし、逆に何かディスカッションがしたいというご要望があれば、いつでも参加したいと考えているので、御検討いただければと思っている。

それから後半は、基本戦略とかプロジェクトとか施策などで、特に今回の全国計画の中で目玉になっている地域生活圏について、かなり重点的に議論をさせていただいた。そういった意味では非常にデジタルとリアルが融合したっていうのはわかるが、そもそもこの地域生活圏はやはり理念が必要だとか、あるいは官民連携で進めるというのもわかるが、官とか民とは特に民は何だろうねとかという話もあった。また、こういった中での人材育成だとか、あるいは外国人の方の配慮だとか、いろいろなところで少し地域生活圏については具体的な制度設計も含めてこれから考えていく必要があるのではないかとこの御指摘をいただいたところ。

それ以外にも、いろいろな御指摘を受けたが、少し事務局の方で包容力を持って捉えていただいて、御対応をいただければというふうに思う次第。いろんなご意見をいただいたということで、ちょっと整

理をしていただければと思う。

それでは最後となりますが、まずは荒川副局長からコメントをお願いします。

### **荒川副局長（中国地方整備局）**

どうも貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

特に神田委員の方から、この4つの将来像の順番についてもご意見いただき、事務局の中でも少し議論をさせていただきたいと考えている。それと、地域生活圏について、御指摘いただいたように、中国地方の地形的または社会的な特性を踏まえた、中国地方ならではの地域生活圏、そこで生活圏はどうというよりも、人々の生活がどんな生活ができるようになるということ踏まえた。中国地方版の生活圏像みたいなものを、事務局でも本日の御指摘を踏まえて議論を深めていきたいと思っている。

今日は、骨子ということで出させていただいたので、皆さんの議論していただいた結果を踏まえて各委員の方々から言い足りなかった、特にポテンシャルのところはもっとこういう面があるのではないかと、具体的なプロジェクトなり、または場合によっては、こういう事例をぜひ入れてもらった方がいいのではないかとというような意見があれば、どしどし事務局の方にお伝えいただけたらなと思っている。随時受け付けております。よろしくをお願いします。

ありがとうございました。

### **益田局長（中国運輸局）**

本日も、非常に目の開くような御意見をいただきありがとうございます。

特に中国地方運輸局の関係の大きな仕事は、地域の足の確保とか、観光の面を中心にやっているところ。地域の足の確保については、従来は様々な事業者が頑張っているところがあったが、少子高齢化の中で事業性がだんだん無くなってきて、いよいよまちづくり等そのものになっており、鉄道にせよバスにせよそういう風になってきた。その上で、神田委員からお話があったように、それぞれの拠点の再構築という観点。その中に地域の足をどう確保していくかという観点も踏まえて取り組んでいきたいと思っている。

また、観光については、これも前半の方の議論であったが、いま我々が大きく取り組んでいるのはG7、あるいは2025年の大阪関西万博を契機として、中国地方にどう特に外国人の方、現在は相対的に中国地方への外国人のインバウンド含めて遅れていることから、どう持ってくるかということ。特に前半で目が開かれたのは、中国地方はどういうところなのか、どういうことを目指していくのかという大きなテーマの中で、その中で我々は今、それぞれの地域資源というものを「つないで」かつ「回していく」という議論をちょうど昨日行っていたところでありましたので、きょうはいろいろな委員、特に座長の方からも「つなぐ」「回す」や、先ほど委員のからもおっしゃられたことを受けて、意識を強くしたので、同じ方向性で頑張っていきたいと思っているところ。

### **森戸局長（中国地方整備局）**

本日の議論を聞いているなかで、私たちの検討に足りなかったなと思ったのは、やはりポテンシャルから将来像をどう考えるかというところ。なかなかうまく考えられていなかったなというところが一つです。反省というと、事務局に申しわけないので、その視点が足りなかったというふうにも思

っている。

それから神田委員のお話の中で、中国地方はこれからの日本の課題を全部持っているのではないかというような話をいただき、これも言葉が適切かどうかわかりませんがトッランナーになっているということであるので、そういう意味では、渡邊座長が冒頭「全国版のコピーではいけない」という話を家田委員から伺ったとあったが、逆に言うと、そこはコピーではなく、先を行かなきゃいけないということなのかなということ。これはなかなかハードルの高い課題だなと思いつつ、先ほどのポテンシャルから未来像を考えるとありましたが、そんなところからとにかく一つ足がかりができるのではないかなと思わせていただいた次第。

また「官と民の民って誰」という話と、冒頭挨拶で申し上げたが、デジタルの措置を受けて距離と時間というところの感覚が変わってきたというところのなかで、大島委員からデータって誰のものみたいなお話もあったが、やはり誰が何をすべきかというところや、これは自分が受け持つ圏域じゃないみたいなのところが変わっているので、もう少し大胆に変わっていくには何かこんなことがあるのではないかというのが、少し従来の枠を超えたサジェスションなりを今日頂けたと思うので、その辺りは次回の検討に向けて、またしっかり整理をしていきたい。

繰り返しになるが、ぜひお気づきの点や、ご意見いただければと感じており、ひよっとすると私どもの方からまた別途御相談をさせていただくということもあろうかというふうに思う。

本日はどうもありがとうございました。

#### **渡邊座長（福山市立大学大学院）**

進行は事務局の方に戻したいと思う。よろしく申し上げます。

#### **事務局**

##### **2) その他**

事務局より資料2を説明（省略）

閉会にあたり、中国運輸局 益田局長よりご挨拶申し上げます。

#### **挨拶（中国運輸局 益田局長）**

改めまして、中国運輸局の益田です。先ほど森戸整備局長、荒川副局長と私からのコメントを述べましたので、この場では改めまして御礼を申し上げます。

本日は骨子素案につきまして渡邊座長を始め会場、そしてWEBでご参加の委員の皆さま大変熱心な議論、本当に有意義な目を開くような御意見をいただきました。ありがとうございました。今回いただいた御意見については、事務局で一旦検討させていただいて、先ほどスケジュールの中でもありましたが、引き続き骨子、あるいは計画策定に向けての御意見がまた賜るような機会があると思います。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。

#### **事務局**

以上をもちまして、第3回中国圏広域地方計画学識者等会議を終了いたします。

以上